

研究プロジェクト4 「立教中学校関係資料研究」

田中智子

本年度は新たな事業として、新制立教中学校の「職員会議録」のテキスト化の作業を進めるとともに、「職員会議録」を研究会において、研究員が一年分ずつ輪番で読み進めていくことを行った。

「職員会議録」は立教池袋中学校・高等学校史料室（以下、池袋中高史料室）に、一九四九年四月分から一九九五年二月分まで保管されている。新制立教中学校の動向が、五十年近く系統的に把握できる貴重な資料である。そこで、テキスト化の作業を進めるとともに、研究会を二ヶ月に一回程度の頻度で開催し、各回研究員一人一年分ずつ輪番で記録を読み進めていくことを決定した。その決定に基づき、今年度は現在（二〇一三年十二月）までに、以下の通り三回の研究会を開催し、一九五一年度分まで読み進めている。

第七回研究会（七月一二日）

第八回研究会（九月三日）

第九回研究会（十一月八日）

その他の作業としては、池袋中高史料室に所蔵されている（1）新制立教中学校資料群の目録化、（2）「横内允・中島博校長資料」の目録化、および（3）旧制立教中学校資料群のナンバリングを行った。

（1）については、史料室内のキャビネットに保管されている新制立教中学校資料のチェックと目録化を行い、現在までに二、一〇〇点の資料が確認されている。（2）についても、新制資料群と同様に目録化を行い、さらに資料の細目も作成した。内容は主に一九九〇年代の一貫教育プロジェクトで配布されたプリント類であり、資料点数は横内校長分が二九一点、中島校長分が四四六点である。（3）については、将来的にデータベース登録することを視野に入れ、センターの資料と共通の登録番号を書いたラベルを貼るなどの作業を行った。

なお、以上の作業については、大部分アルバイトの舟橋正真氏に担っていただいた。この場を借りてお礼を申し上げます。

また今年度は、池袋中高教諭・市橋祐介氏をセンター員に招聘する、池袋中高史料室の整理方針について史料室担当の原真也教諭と懇談を行うなど、池袋中高との連携を意識した一年であった。来年度はその連携をさらに深め、より良い資料保存の方法を模索するとともに、研究活動の幅を広げていきたい。